

ノヤマ通信

vol.7 (2022.師走)



森のようちえんヒュッテ

【11月の活動場所：7日上松葉奥池ビオトープ、10日宇和運動公園、17日山の基地、21日愛宕山公園、24日明石寺】

●活動を見つめるコラム

「森のようちえんの運営スタイルについて」

先日、愛媛県内で森のようちえん活動をやっている団体の集いがありました（裏面参照）。

森のようちえんは、通常の保育園・幼稚園等と同じように子どもを預かる“預かり保育型”、私たちのところのような“親子参加型”、週末に行われる“イベント型”など、運営者によって様々な形態があります。全国的には、親子参加型から開始して徐々に預かり保育を始める団体が多いようです。でも、私たちは今後も週2回の親子参加型というスタイルを当面の間は続けていきたいと考えています。

私たちは活動をする中で、**複数の親子が混ざり合って一緒に子どもを見守る「自主保育」という場の価値を強く感じる**ようになりました。家の中だけで、わが子と一対一で向き合うというのは結構大変です。でも、「こんなことあったんよ〜」と誰かと会って話したり、他のお母さん・お父さんの子どもへの接し方を見たりすることで、不安の解消や視野の広がりにつながったりするものです。また、わが子だけでなく、他の家庭のお子さんの成長と一緒に喜んだり、赤ちゃんがいるお母さんをみんなでフォローしたりする皆さんの姿を見ると、こういうコミュニティは、子育てをしていくうえでとても大切だし、社会の中でもっと広まってほしいなあと感じています。こうしたことから親子参加というスタイルを今後も継続していきたいと思っています😊。

一方で、私たちにはヒュッテに参加してくれている子どもたち以外にも自然体験の機会を提供したり、地域の自然環境を守る活動をしたりしていきたいという思いがあります。そのため週2回という活動頻度が現状ではちょうどいいと感じています。（ゆ）



▲11/24 森のようちえん@明石寺

山の基地

【11月に行った活動：13日開放日⇒雨天中止、27日イベントDAY（たき火の日）】

●11/27のイベントDAYは、家族単位でじっくりたき火をしてもらいました。マッチで火をつける練習やどんなものがよく燃えるか調べる実験、薪き割体験などをしてから、たき火にチャレンジ。各々、火で焼きたい食材を持ってきてもらったので、たき火を使った昼食を楽しみました。

●今はインターネット等であんたんにたき火のやり方なども調べられる時代です。でも、「知っている」と「できる」のは大違い。直接体験して学ぶことの大切さは今も変わりません。

●キッズハウスの作成をしていると、手伝ってくれた子がいました。基地に工作道具などを常備して、自由に工作ができるようにするのもいいなと思っています。



✿✿ その他の活動

●『だいちのめ』第3号の配布

西予市から委託を受けて作成している四国西予ジオパークのフリーマガジン『だいちのめ』第3号が発行しました。公共施設などあちこちで配布されていますが、私たちが取材でお世話になった方の元へ手渡しで届けたり、ご近所に配ったりと顔の見えるやり方でコツコツ配布しています。



●11/6どんぐり観察会@歴博

『だいちのめ』第3号で紹介した西予で見られるどんぐりを実際に観察しよう、と歴博で観察会を開きました。松前町などからの参加もあり、どんぐりの人気ぶりに驚きました。



●11/11わらぐろづくり

宇和盆地の風物詩、わらぐろづくりのお手伝いに行きました。活動されているのは高齢の方が多く、私たちの世代が積極的に受け継いでいくことが大事だなと感じています。



●11/19-20愛媛の森のようちえんの集い

愛媛県内で森のようちえん活動をしている団体の集いが西条市でありました。2022年12月現在、愛媛県内で定期的に森のようちえん活動をしている団体は、私たちのほかに新居浜、西条、今治、松山にあるようです。自然の中での子どもの主体性を大切にしたい保育活動がもっと各地で広まっていくといいな、と思います。集いでは、子供向けに運動会なども企画されていて家族で楽しめました。



✿ いきもの情報

活動の中で出会った生きものたちを紹介します。



ヒバカリ

体長50cm前後の小さなへび。無毒。首もとに黄色い三日月のような模様があるのが特徴です。
(野村/愛宕山公園)



ノササゲ

あざやかな紫色の果実が目を引きつける性のマメ科植物。食用にはならないようです。
(宇和/明石寺)

📖 おすすめの本

高橋源一郎さんの『答えより問いを探して』という本を読みました。この本は、著者がきのくに国際高等専修学校で実施した特別授業を元に構成されています。(この高校は、ノヤマ通信vol.4で紹介した映画『夢みる小学校』にも登場したきのくに子ども村学園の高等部にあたります)

子育てをしていると、子どもから質問されない日はありません。「○○ってどういう意味?」「何で○○しちゃいけないの?」...。ここ最近で一番重かった質問は、「なんで戦争しよるん?(小2)」でした😓。

著者は、難しい質問には共通する点があると言います。「**正解を誰も知らない**」ということです。そんな質問をされた時、私たちはどう答えたらいいのでしょうか?本の中で紹介されていた鶴見俊輔さん(哲学者)の答え方がとても印象的でした。鶴見さんは、正解のない質問に対して「**私ならこうする**」と答えていたんです。正解が分からない問いに向き合うとき、私たちは自分の感覚や経験から出発して考えていくしかないという考え方です。このエピソードを読んで、正解を言わなければいけないという呪縛から、少し解放されたような気持ちになりました。子どもからの質問は、好きなキャラクターから戦争まで幅広いですが、分からないことは一緒に考えていけるといいなと思います。(ち)



<発行> 一般社団法人

ノヤマカンパニー



愛媛県西予市宇和町稲生237-1

noyama.company@gmail.com